

2026年6月26日

各 位

東京都中野区本町一丁目 32 番 2 号
会 社 名 アクセルマーク株式会社
代表者名 代表取締役社長 松川 裕史
(コード番号：3624 東証グロース)
問 合 せ 先 経営管理部ゼネラルマネージャー
若海 正弥
(TEL 03-5354-3351)

2026年9月期第2四半期決算説明会に関する質疑応答内容のお知らせ

当社は、2026年6月18日に開催しました下記の機関投資家・アナリスト向け決算説明会につきまして、当日の質疑応答内容をまとめましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

【2026年9月期第2四半期 機関投資家・アナリスト向け決算説明会】

1. 開催日時 2026年6月18日(木)
2. 開催方法 会場開催及びオンライン配信によるハイブリッド型開催
3. 開催場所 日本証券アナリスト協会 7階小会議室
4. 説明者 代表取締役社長 松川 裕史
取締役管理本部長 村上 嘉浩

決算説明会動画

<https://www.youtube.com/watch?v=05eq48Q6m0k>

決算説明会資料

<20260514153744136s.pdf>

資金調達パッケージに関する補足資料

<140120260529554454.pdf>

以上

【質疑応答内容】

質問 1

(株式会社コンヴァノとの資金調達パッケージの発表を受けて) 改めて松川代表が就任してからの5年間の振り返りをお願いしたい。これまでの事業運営のなかで業績を好転させるチャンスはいつだったのか。また、何が反省要因であったと考えているのか、教えてください。

代表取締役社長 松川：

コロナ渦における巣籠り需要により広告事業が好調に進捗していましたが、その後の体制変更や事業を軌道に乗せ続けることができなかつたことが反省点の1つとして挙げられます。

また、ヘルスケア事業及びトレカ事業においては、現状伸びてきている段階ではありますが、依然として投資段階にあり、自力での資金の確保ができなかつた点においても、目論見通りに進められなかつた要因と考えております。

質問 2

(質問 1 に続き) 取締役管理本部長である村上取締役(財務担当の観点) から見て、業績を好転させるチャンスはいつだったと思うか、教えてください。

取締役管理本部長 村上：

資本政策の観点としては、当社第 29 回及び第 30 回の新株予約権を発行した施策は、当初想定以上の資金(調達累計 1,132 百万円)を調達することができたことから業績を好転させるチャンスがあったと思っております。しかしながら、その後に調達資金を利用して取得した子会社の業績をうまく上げていくことができず、結果として現在の業績を招くことになったことが反省点としてございます。

事業施策に着目すると、トレカ事業の収益基盤の立ち上がりに想定以上に時間を要してしまつてこと、また、ウェルネスモアラボラトリーズ株式会社の株式を取得したタイミングで十分な資金を確保することができなかつたことの2点が当初想定どおりの成果に至らなかつた主な要因であると認識しております。

質問 3

振り返ると全体的に事業活動においてスピード感がなかつた印象がある。この点について、迅速性を欠いた要因含めて、松川代表の認識を教えてください。

代表取締役社長 松川：

赤字が継続的に続いている状況で、どの事業を1つの大きな柱とするか、という判断が遅れてしまつたことが背景にございます。

ヘルスケア事業やトレカ店舗事業は、当社にとってはいずれも新たな領域への挑戦であり、事業モデルの確立や運営ノウハウの蓄積に一定の時間を要したことが、スピード感の面での課題につながつたと認識しております。

今後につきましては、ヘルスケア領域での知見のあるコンヴァノ社の支援が入ることが当社のヘルスケア事業の大きな転換点となり、今まで以上の成長が期待できると考えております。

【注意事項】

本資料で記述している内容は、決算説明会の質疑をもとに要約した当社の見解であり、その情報の正確性、完全性を保証するものでなく、今後、予告なく変更される可能性があります。

また、将来予測や業績見通しなどに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることを御承知おきください。

<本リリースに関するお問い合わせ先>

アクセルマーク株式会社 経営管理部

メール：ir@axelmark.co.jp